



多層アプリケーションとサービス グラフ の設定

- [多層アプリケーションとサービス グラフについて \(1 ページ\)](#)
- [GUI を使用した多階層アプリケーション プロファイルの作成 \(1 ページ\)](#)

多層アプリケーションとサービス グラフについて

[Multi-Tier Application with Service Graph Quick Start] ダイアログは、ブリッジドメイン、EPG、VRF、サービス、契約など、サービスグラフのコンポーネントを構成するための、統一された方法を提供します。Cisco APIC の別々の場所で各オブジェクトを設定しなくても、[Quick Start] ダイアログは、必要な設定を収集し、それらをシンプルで組織的なステップバイステップのプロセスにまとめます。

GUI を使用した多階層アプリケーション プロファイルの 作成

始める前に

手順を実行中に、使用可能な場合または前に、次のオブジェクトを設定します。

- **テナント:** 手順を実行する前に少なくとも 1 つのテナントを設定します。
- **VMM ドメイン プロファイル:** デバイス仮想サービスを使用すると、レイヤ 7 デバイスのクラスタ (デバイスがホストされる) をレイヤ 4 で、Virtual Machine Manager (VMM) ドメイン プロファイルと、VM を設定します。
- **外部ルーテッド ネットワーク:** 外部ルーテッド ネットワークにサービス デバイスを接続する場合は、(L3Out) ネットワークの外部レイヤ 3 を設定します。

手順

ステップ 1 [Quick Start] の [Multi-Tier Application] ダイアログにアクセスします。

- a) メニュー バーで、[Tenant] > [All Tenants] の順にクリックします。
- b) [All Tenants] 作業ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- c) [Navigation] ペインで、[Tenant *tenant_name*] > [Quick Start] > [Multi-tier Application] を選択します。
- d) [Work] ペインで、[Configure Multi-tier Application] をクリックします。
[Create Application Profile] ダイアログが表示されます。
- e) [Start] をクリックします。

ステップ 2 [STEP 2 > EPGs] ダイアログ ボックスで、プロファイルの基本を設定し、ブリッジ ドメインと EPG を設計します。

- a) [Application Profile] フィールドで、プロファイルの一意の名前を入力します。
- b) (オプション) このプロファイルで 1 個以上のデバイスが仮想である場合は、[VMM Domain Profile] ドロップダウンリストから仮想マシン マネージャ (VMM) ドメイン プロファイルを選択します。

(注)

[VMM Domain Profile] ドロップダウン リストで表示および選択されるように、この手順を実行する前に VMM ドメイン プロファイルを作成する必要があります ([Virtual Networking] > [VMM Domains])。

- c) (オプション) コンシューマまたはプロバイダー EPG が外部ルーテッドネットワークに属している場合は、[Consumer L3 Outside] および [Provider L3 Outside] フィールド (またはいずれか) のドロップダウンリストからネットワークを選択します。

(注)

外部ルーテッドネットワークが [L3 Outside] ドロップダウンリストに表示されて選択できるように、この手順を実行する前に外部ルーテッドネットワークを作成する必要があります ([Tenants] > テナント > [Networking] > [External Routed Networks])。

- d) ブリッジ ドメイン ボタンについて、EPG ゲートウェイ IP アドレスが単一の共有サブネットか、EPG ごとに設定されるかを決定します。

[Shared] を選択した場合、[Shared Gateway IP] フィールドが表示されます。[Per EPG] を選択した場合、手順 f に進みます。

- e) [Bridge Domain] ボタンから [Shared] ボタンを選択した場合、[Shared Gateway IP] フィールドの EPG で共有されるゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
- f) アプリケーション階層 (EPG) の [Name] フィールドに EPG の名前を入力します。
- g) [Bridge Domain] ボタンから [Per EPG] を選択した場合、EPG で使用されるゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。[Bridge Domain] ボタンから [Shared] を選択した場合、[Shared Gateway IP] フィールドに入力した IP アドレスが表示されます。
- h) (オプション) [+] をクリックし、手順 g に従い別の EPG を追加して EPG を設定します。3 つの EPG が必要な場合はこの手順を繰り返します。
- i) [Next] をクリックします。

ステップ 3 [STEP 3 > Services] ダイアログで、必要に応じて、EPG の近隣にあるサービスに含まれるものを設定します。

- a) (オプション) [Share same device] ボックスのチェックをオンにして、すべての EPG でファイアウォールロード バランサを共有します。
- b) (オプション) 各 EPG の間で、このプロファイルに含むファイアウォール (FW) またはロード バランサ (ADC) を選択します。
- c) (オプション) EPG 間で複数のデバイスを追加する場合は、< Toggle > をクリックしてデバイスを再配置します。
- d) [Next] をクリックします。

ステップ 4 (ファイアウォールとロード バランサ) [STEP 4 >] ダイアログとファイアウォールまたはロード バランサの設定セクションで、サービス デバイスを設定します。

- a) [デバイス タイプ] ボタンでは、[物理] または [仮想] を選択します。
- b) [デバイス タイプ] に [物理] を選択した場合、[物理ドメイン] ドロップダウン リストからドメインを選択します。[デバイス タイプ] に [仮想] を選択した場合、[VMM ドメイン] ドロップダウン リストおよび [デバイス 1 VM] ドロップダウン リストからホストされたデバイスの仮想マシン (VM) からドメインを選択します。
- c) [ノード タイプ] ボタンでは、[One-Arm] または [Two-Arm] を選択します。デバイスがコンシューマ コネクタ (one-arm) のみを有するか、コンシューマとプロバイダ (two-arm) を有するか決定します。
- d) [ビュー] ボタンでは、[単一ノード] または [HA ノード] を選択します。[HA ノード] を選択した場合、2 番目のインターフェイス (物理デバイス) または 2 番目の VNIC (仮想デバイス) がコネクタの設定に含まれており、仮想デバイスでは 2 番目の仮想マシンを選択する必要があります。

ステップ 5 (ファイアウォールのみ) [STEP 4 >] ダイアログおよびコンシューマとプロバイダーセクションで、ファイアウォール コンシューマとプロバイダー コネクタを設定します。

- a) [IP] フィールドの物理デバイスでは、ファイアウォールデバイスのレイヤ 4 ~ レイヤ 7 ポリシー ベースのリダイレクト ポリシーにコンシューマ/プロバイダー インターフェイス IP アドレスを入力します。仮想デバイスでは、コンシューマ/プロバイダー インターフェイスの IP アドレスを入力します。
- b) [MAC] フィールドで、ファイアウォールデバイスのレイヤ 4 ~ レイヤ 7 ポリシー ベースのリダイレクト ポリシーの MAC アドレスを入力します。
- c) [ゲートウェイ IP] フィールドで、ルート ゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- d) 物理デバイスでは、[デバイス 1 インターフェイス] ドロップダウン リストで、インターフェイスを選択します。仮想デバイスでは、[デバイス 1 VNIC] ドロップダウン リストで vNIC を選択します。[ビュー] ボタンから [HA] ノードを選択した場合、[デバイス 2 VNIC] ドロップダウン リストで 2 番目の vNIC を選択する必要があります。
- e) (物理デバイスのみ) [Encap] フィールドで、インターフェイスのポート カプセル化を入力します。

ステップ 6 (ロード バランサのみ)[手順 4 >] ダイアログおよびコンシューマとプロバイダー セクションで、ロード バランサ コンシューマおよびプロバイダー コネクタを設定します。

- a) [ゲートウェイ IP] フィールドで、ルート ゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- b) 物理デバイスでは、[デバイス 1 インターフェイス] ドロップダウン リストで、インターフェイスを選択します。仮想デバイスでは、[デバイス 1 VNIC] ドロップダウン リストで vNIC を選択します。[ビュー] ボタンから [HA] ノードを選択した場合、[デバイス 2 VNIC] ドロップダウン リストで 2 番目の vNIC を選択する必要があります。

- c) (物理デバイスのみ) **[Encap]** フィールドで、インターフェイスのポート カプセル化を入力します。
- d) コネクタで L3 トラフィックを終端させるには、**[L3 Destination (VIP)]** ボックスをオンのままにします。コネクタが L3 宛先ではない場合はオフにします。

(注)

このパラメータのデフォルトは有効 (オン) です。ただし、ポリシーベース リダイレクトがインターフェイスで設定されている場合、この設定は考慮されません。

ステップ 7 追加でデバイスを設定する場合は、**[Next]** をクリックし、各デバイスごとに手順 4 ~ 6 を繰り返します。

ステップ 8 [完了 (Finish)] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。